

# 創立10周年 最多の189人が入学



## 子ども大学学生新聞

第37号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

### 「なぜ?」「どうして?」を大切に 学ぶ楽しさ・学ぶ喜びを味わおう



子ども大学かわごえは今年、設立一〇周年を迎え、一八九人が入学しました。これまでで最多の入学者です。内訳は四年生七〇人、五年生五九人、六年生六〇人の計一八九人。その入学式と第一回授業が二〇一七年六月四日、東京国際大学第一キャンパス三号館三二四教室であり、入学者一七三人が出席しました。入学式とあって保護者も多数参加

#### ☆司会役は中央小の大山さん

しました。  
入学式は中央小六年の大山梨楓さんの司会で始まりました。はじめに遠藤克哉理事長・学長があいさつをしました。「こんにちは、みなさん。入学おめでとう。第一〇期を迎えた今年には二つの柱を立てました。一つは、子ども大学を創設したときの原点に立ち返り、みなさんの『なぜ・どうしてだろう』という思いに応えて、学ぶ楽しさ・学ぶ喜びを体験していただきたいと思えます。もう一つは、国際化に対応した教育を進めたいと思えます。日本はますますグローバル化していきます。みなさんが国際社会で活躍できるように外国のことをしっかりと学んでいただきたいと思えます。ここで学んだことをお家に帰って話題にして、学びを深めてください」

#### ☆自分の進む道を見つけ

つぎに来賓のお祝いの言葉がありました。まず安倍正信・川越市教育長が川合善明・川越市長からの祝辞を代読しました。「子ども大学は、学校での学習でもつ

と知りたいことを、大学の先生や専門家から学ぶ『新しい学びの場』です。好奇心や興味を持って学び、自分の進む道を見つけ、自分を磨いていきたい」。つづいて浅子藤郎・鶴ヶ島市教育長があいさつ、「学校ではアクティブ・ラーニングという新しい学びが始まります。課題を見つけ、解決する能力を育みます。その学習に子ども大学の学びがきつと役立つと思えます」と述べました。



西村卓人君・大山梨楓さん

#### ☆もっと知りたいことを学ぶ

中村正宏・川島町教育長が「みなさんが『なぜ?』と疑問を持ち、もっと知りたいことを大学の先生から学ぶのが子ども大学です。先生の話をしっかりと聞いて、いろんなことを体験してください」と励ましました。

来賓のあいさつのおと、川島町立井草小六年の西村卓人君が「入学おめでとう。子ども大学は楽しい授業があるので、一年間がんばりましょう」と、元氣よく新入生歓迎の言葉を述べました。

最後に、子ども大学卒業生でジュニアスタッフの堤彩夏さん、友花さん姉妹が、きれいな声で校歌を歌いました。

## 災害が起きたときに何をするか

### 朝日先生「国際緊急医療援助と災害救助」

先生は国際緊急援助隊医療チームに参加して、世界各地の災害地で医療活動しておられます。まず東日本大震災の話をしてくださいました。朝日先生は東日本大震災のとき、たまたま電車に乗っていました。地震が起きて、電車が止まりました。止まった場所はトンネルの中でした。電車に乗っている人たちを助けようとして、救出活動の手伝いをしたそうです。

災害現場の「SKK」というのがあって、「S」は寒い、「K」は暗い、もう一つの「K」は危険ということを教えてもらいました。

次に日本の地震について話がありました。日本は火山が多く、地震がよく起こります。環太平洋地震帯の地図を見ると、日本は真っ赤でした。インドネシアあた

事務局から保護者のみなさんへのオリエンテーションがあり、連絡方法や注意事項などの説明がありました。遠藤学長は学生たちに「授業では、『なぜ?』『どうして?』と疑問を持って、どんどん質問して、『なぜ』を、しっかりと考えてください」と話しました。

りと日本が太平洋側に沿って、すごく赤かったです。

(秋山花那記者 鶴ヶ島二小5年)

☆簡易トイレが役に立ち  
二時間目は、まず「生きていくのに必要な物は何ですか」と、学生たちに聞きました。先生は答えを画面に映しました。「水」「食糧」「テント」「毛布」「医薬品」「情報」。「水」について先生は「大人一人に必要な水の量は？」と四択問題を出しました。①一本、②二本、③四本、④十本。正解は、②の二本でした。

震災の時に大ぜいが困ったことはトイレです。震災後のトイレは、とてもきたなくて、すぐにつまってしまう。そこで先生は、簡易トイレの作り方を教えてくださいました。段ボールにビニール袋をかぶせて、中に新聞紙を入れて、でき上りです。

つぎに、先生は現地で配った公衆衛生の注意書を見せてくださいました。手洗い、うがいをしましょう、体を清潔にしましょう、ぼうしをかぶり、日焼けをしないようにしま



しょう、蚊にさされないようにしよう、などです。最後に、地震が起きた時の対策と行動方法を教える

いただきました。地震が起きたら、まず頭を守り、体を守り、津波が来そうなら高い所に逃げます。つぎに準備についてです。先生は「ランドセルにペットボトルの水、毛布、食糧、ラジオ、医薬品はさみなどを入れます」と言われました。そして、宿題として「ユーチューブで植松務さんを調べてみてください」と言われて授業は終わりました。

(奈村晴冬記者 高階小6年)

\*植松務さんは小型ロケットの開発に取り組んでいる植松電機の社長。「どうせ無理」と思わず、夢をあきらめないこと大切さなどを話されています。

☆朝日先生にインタビュー

Q なぜ医師をめざしたのですか。  
A 学生運動でさせつしました。社会への恩返しです。

Q 一番大変だった災害は何ですか？  
A 東日本大震災です。

Q 災害の時、もし自分の目の前で救助しなければならぬ人がいたら、どうやって助ければよいですか？  
A ①現場の安全、②自分の安全、③お年寄りの方や救助を求めている人の安全を考えるのが大事です。

(秋山花那記者 鶴ヶ島二小6年、奈村晴冬記者 高階小6年)

☆記者の授業感想



◇新井悠希記者 大東西小5年

入学式では、遠藤学長の「今年はずいぶん大学かわごえの第十期です。この取り組みをこれからも続けていけるといいです」という言葉を聞いて、ぼくも未来の子どものために、ずっと続くといい

なと思いました。授業では、「SKK」という言葉を知りました。そして日頃の準備が必要だと思いました。

◇広瀬裕人記者 高階小4年

授業でもおもしろかったことは、英語は道具ということや、「SKK」の「寒い」「暗い」「危険」を略している工夫です。朝日先生は東日本大震災のときも、海外にいるときも、大変なことをして人を助けているのが、えらいなと思いました。

☆人のために役立ちたい

◇長坂月名記者 高階北小4年

朝日先生の授業を受けて、英語は大切だと思いました。ぼくは英語がとても苦手です。でも、先生の「英語は道具だ」という言葉を聞いて、苦手な英語を少しでも得意になれるように、たくさん勉強して、人のために役立てるようになりたいと思いました。

◇杉山絢音記者 高階西小4年

わたしは「SKK」が心にとりました。もう一つは、「人をしあわせにできる七つのこと」です。理由は、わたしも、人をしあわせにできるようにしたいなと思ったからです。

◇堀 綾花記者 高階西小4年

朝日先生が、おもしろく分かりやすく説明してくださったので、楽しく勉強が出来ました。朝日先生に学んだことを、今後、役立てていきたいです。

◇小畑美宙記者 高階西小6年

私は子ども大学が今年十年目ということを知りました。そして子ども大学は川越で日本で一番最初にできたといっていて、とびぬけてびっくりしました。授業では、災害があったら、すぐにチームを組んで助けに行くことに感心しました。

私だったら、急に「行くぞ」といわれても、「むり、むり」と言い返すのに、本当にすごいなと思いました。

◇堀 颯斗記者 高階西小6年

災害時には、どんなに冷静な人でもあわててしまうと思います。わたしは、朝日茂樹先生に授業を受けて、災害時のSKKを知りました。そして大勢の人が困るのはトイレということも知りました。授業を受けて、災害時には冷静に適切な判断をしたいです。

◇吉田真奈記者 坂戸市勝呂小5年

地しんがおきると、心がパニックになってしまったりすることを、初めて知りました。また、自然災害の時は、日常のことをしつかり行い、おちついて行動することが大切ということが分かりました。

☆災害は怖い国に起ります

◇塩野 真記者 川越西小4年

ぼくが一番びっくりしたことは、災害が、まずしい国で起りやすいということ。お金がなくて、人を守ったりできないので、たくさんの方が亡くなったと思います。悲しいことです。助けようと思っても助けられないのも悲しいです。なので、朝日先生はかっこいいと思います。ぼくも朝日先生のような、命を助ける仕事をしたいです。

◇上杉 環記者 高階小6年

先生の「プロフェシヨナル」のお話を聞いて、とても感動しました。ぼくは「その道、その仕事で食べていける」ことは考えてはいないけれど、「その仕事で人を笑顔にし、喜ばせられる」ことは考えていませんでした。プロフェシヨナルとは、自分のためだけでなく、人のために仕事をするのだということが分かりました。